

# INTERVIEW【女性職員編】



## 横浜市消防局を志望した理由は何ですか？

子供の頃に発展途上国で活動をされている医師の公演を聞く機会があり、漠然とですが人の命を救う仕事をしたかったという夢がありました。高校を卒業する頃、進路を考えている中で救急の最前線で助けを求めている人のところに駆け付けることができる救急救命士の存在を知り、目指すようになりました。



## 現在の仕事内容

私は南消防署 蔦田消防出張所で消防隊長として勤務しています。火災や災害、救急などの緊急事案に24時間体制で対応し、地域の安全を守る役割を担っています。

現場では、隊員の安全を確保しながら、迅速かつ的確な判断を求められる場面が多く、常に緊張感を持って対応しています。出動がない時間帯には、訓練や地水利調査、防災指導、立入検査などの業務を行い、災害に強い地域づくりに向けた取り組みも行っています。

消防隊長として、現場対応だけでなく、日々の備えや地域との連携も含めて幅広い業務に携わっており、責任の重さを感じながらも、地域の安心・安全に貢献できることにやりがいを感じています。

女性も男性と同じように活躍することができそうなイメージがあり、顔の見える関係を築きながら様々なことに挑戦したいと思い、横浜市消防局を受験しました。

## 入庁前に不安だったことはありますか？

入庁前は、男性職員の中でやっていけるのか、体力面で不安がありました。筋力や体力が必要な場面では大変なこともあります。周囲のサポートもあり、安心して業務に取り組むことができています。



実際に働いてみてどう感じましたか？

入局当初は「一人でも多くの命を救いたい」と救急隊長を目指していましたが、海外派遣や研修などを通して視野が広がり、救急以外にも自分にできることがあるかもしれないと気づきました。経験を重ねる中で、自分の役割や可能性を柔軟に考えられるようになったことは、大きな成長だと感じています。

女性職員として働くうえで、職場のサポート体制はどうですか？

育児支援や休暇制度などの福利厚生が充実しており、安心して働ける環境が整っています。女性職員も少しずつ増えてきているため、相談しやすい雰囲気があり、職場全体で支え合える体制があると感じています。

やりがいを感じる瞬間はどんなときですか？

職員と共に成長し、チームとして困難を乗り越えた際に部隊の成長を実感でき、その努力が市民の方の命や安心を守ることにつながり、達成感を共有できたときに大きなやりがいを感じます。また、職場で職員が生き活きと業務に取り組む姿を見ることができるともやりがいを感じることができ瞬間です。

職場の雰囲気や人間関係について教えてください



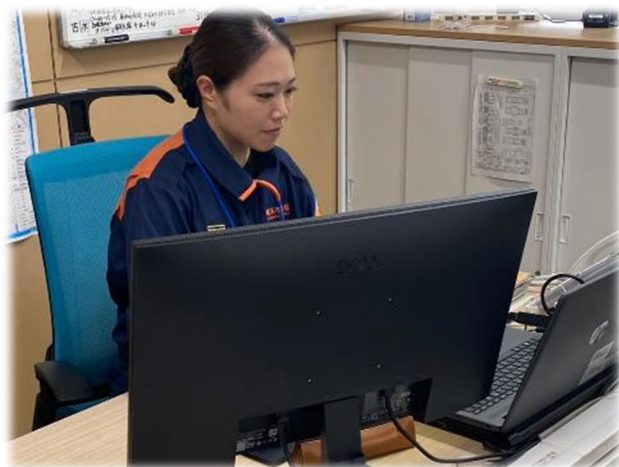
職場は明るく、互いに声を掛け合いながら業務に取り組む雰囲気があります。政令指定都市で、大きな組織ではありますが、顔の見える関係が築けるのも魅力のひとつです。困ったことがあればすぐに相談できる環境が整っており、上司や同僚との人間関係も良好です。

休日の過ごし方やプライベートとの両立について

休日に旅行に行ったり、当直明けの日にドライブがてら温泉へ行き、その土地の美味しいものを食べて帰ってくるというような過ごし方をしています。自然の豊かな静かな場所でも何も考えずにぼーっと過ごす時間が、心身ともにリフレッシュできる至福のひとつです。

今後の目標やキャリアビジョンを教えてください

現時点で目指すポジションはありませんが、置かれた環境の中で自分にできることを一つ一つ積み重ねていく中で自分の道を創っていきたいと考えています。そのため、タイミングを逃すことなく、様々なことに挑戦する姿勢を持ち、経験を積みながら視野を広げ、自分らしく『人を大切にする組織』作りに貢献したいと考えています。



## MESSAGE

これから消防職を目指す女性へのメッセージ



男性の多い職場で不安もあるかと思いますが、自分の思いを大切に自分らしく働ける未来を信じて、挑戦してみませんか？

努力次第で、自分らしく働ける道を歩むことができる環境が、横浜消防にはあります。あなたらしい一歩を、応援しています。